

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0190501411), 法人名 (社会医療法人 共栄会), 事業所名 (グループホーム まいホーム川北B棟), 所在地 (札幌市白石区川北2条1丁目7-8), 自己評価作成日 (令和3年9月5日), 評価結果市町村受理日 (令和3年11月9日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190501411-00&ServiceCd=320

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ホームとしての運営理念の他に毎年現状に即したユニット目標を立てており、本年は利用者の健康管理と感染症対策の強化を目標に日々実践に努めている。
・身体拘束廃止委員会では定期的に会議や研修を行い、全職員が内容を正しく周知して身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。
・災害対策については定期的に火災、地震、水害避難訓練を実施し、実施後は訓練の様子を振り返り災害発生時に全職員が迅速で的確な行動をとれるよう努めている。
・チームケアを大切にしながら、コロナ渦においても利用者が個々にできるだけ安全で快適な生活を送れるように支援している。
・ホームの畑では毎年野菜や花を育て利用者の目を楽しませており、収穫した野菜は皆で味わって生活に彩りを添えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年10月4日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 covering various service outcomes like staff-user relationships, community activities, and safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げ、ユニットでも毎年目標を立てている。理念や目標は一年ごとに達成状況を話し合い、毎年現状に即した目標を立て実践できるよう努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止の観点から、以前のような積極的な地域との関わりは制限されているが、現状が落ち着いた際には交流を深めていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の中学生の丁稚奉公や高校生の施設見学の受け入れを行っていたが、新型コロナウイルス感染予防の観点から現在は受け入れを中止しており、事業所として地域への働きかけは十分に行えない状況にある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍においてご家族や地域包括支援センター職員等外部からの会議参加は制限しているが、事前に構成員から意見を求めた上で管理者と各ユニットの職員で話し合いや意見交換を行い、会議の内容は関係者に文書でお知らせをしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや市担当者とは日頃から連絡を取り合い協力体制を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進委員会では定期的に会議を開催して現状を話し合い、内容は全職員が周知できるようにしており身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は正しい知識を持って、互いに連携を図りながら虐待の防止を徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、利用者個々に必要に応じて関係者と話し合いながら有効に活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時には利用者と家族に十分な説明がなされており、利用者本人や家族の意向をしっかりと確認している。また、解約・改定時はその都度十分な説明を行っており、理解・納得を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が設置されている他、苦情窓口を明示しており意見や苦情は運営に反映されサービスの向上に繋がるように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中で意見や提案があればできる範囲で検討、対応がなされている。また何かあればその都度管理者に相談している他、責任者会議や各ユニット会議等で話し合う機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務上何かあれば職員は管理者に相談している。法人からはその都度文書等で業務連絡やお知らせ等が届き、職員が働きやすい環境作りに努めている。また休暇に関しては状況に応じてできる範囲で臨機応変に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍において、外部研修への参加や法人内で行われる研修や勉強会等も開催できていないが、職員間でより良い仕事ができるよう日常的に話し合ったり意見交換を行い向上心を持って働いている。また、職員個々に定期的にストレスチェックも実施されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍において他同業者との交流の機会はほとんどない状況だが、法人内では様々な業種と連絡を取り合い、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分ではないものの、入居前に家族や関係者から現在の状況についての情報をいただき、情報として得たことを職員間で共有し、入居初期に不安が少なく安心して生活していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分な情報をいただけないことも多いが、入居後には何かあればその都度家族と連絡を取り合って不安や要望を聞き信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からできるだけ聞き取りを行って、その時に必要としている支援を見極めている。また、デイケアやその他のサービスも視野に入れた話し合いがなされている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者個々にできることとできないことを見極めて継続して行えるように支援している。また、利用者や職員が日常生活の中でそれぞれができることを互いに助け合いながら行えるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には毎月それぞれお便りと心身の状態を記載した紙面を郵送し状態を伝えている。面会時にも近況をお伝えし、状態に変化があった際にはその都度連絡をして対応を話し合っており、共に本人を支えていくという姿勢を持って、家族との関係作りを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において面会は制限させていただいているが、感染症対策を施したうえで玄関三枚ドアガラス越しでの短時間の面会は可能である。また、希望時にはいつでも電話をかけたたり、取り次いだりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者個々の個性や生活習慣等を把握し、利用者同士の人間関係を考慮したうえで、座席の配置等にも配慮している。また、利用者間でのトラブルのないように日々状況に合わせた支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の関わりはほとんどないが、関係性を大切に、必要があれば支援できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が困難な場合も表情等から意思や思いを把握するように努めており、情報は職員間で共有しその都度対応を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴・暮らし方・生活環境等は家族から情報を得て、可能な限り本人からも情報収集を行うようにし、情報は職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の日常の様子を観察し、毎日の記録やモニタリング等を通じて利用者個々の現状を把握できるように努めており、情報は職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、利用者個々の心身の状態の変化に応じてその都度介護計画の見直しを行い現状に即したものを作成している。また、定期的に本人や家族の意向を確認し、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録は介護計画に即した内容となっており、利用者個々に記載方法も工夫している。また、毎月モニタリングを行って現状に即した介護計画を作成できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員は利用者個々の状態に応じて受診に同行している他、デイケアの利用や訪問看護等、法人内で活用可能なものを有効活用しサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において地域資源の活用には制限があるが、訪問理美容等は感染対策を徹底したうえで状態に応じて利用できるよう支援している。また、市事業によるオムツ支給サービスを利用されている利用者もいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を大切に、入居前からのかかりつけ医への受診を継続できるように対応しており、その際は必要な情報を提供して安心して適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、職員は毎日利用者個々の状態を報告し何か変化があればその都度指示を仰いで適切な対応を取っている。また、系列病院の訪問看護を受けられるよう支援しつつも相談できる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護添書を作成して情報の提供を行っている。また、入院中も定期的に経過を聞き、退院時には病院関係者からの情報提供を受けて、早期退院に向けて病院関係者と情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化についての指針は法人で定め、入居時に家族に説明をして同意をいただいている。また、終末期のあり方についてはできるだけ早い段階から家族の意向を確認し主治医等関係者を含めて話し合い、方針は共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応については、状況に応じて日頃から話し合うようにしており、ホーム内にAED等の備品を準備し、緊急時に対応できるように体制を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍において地域への働きかけは十分ではないが、定期的に火災、地震、水害等の避難訓練を実施し、毎回訓練の結果を話し合っ全職員に周知している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格を尊重して、できるだけ本人が不快に感じないような言葉掛けをするよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が自己決定できるような場面作りを心掛け、希望や思いを表出しやすいような声掛けを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他利用者との兼ね合いや職員側の都合で希望に添えない場合もあるが、できるだけ個々の状態や意向に添って本人のペースで過ごすことができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて衣替えをしたり、好みに合った洋服が着られるように支援している。また、定期的に訪問理美容を利用する等して整容を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の嗜好や心身の状況を把握し、メニューに反映されている。また、個々の状態に応じて食事形態を工夫し安全に美味しく食事が出来るよう対応している。また、個々にできる範囲で下膳等を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は個々に毎日記録し状況は把握できており、また、個々の状態に合わせて食事介助を行ったり食事量の調整や代替品の用意、食事の形状を工夫する等して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを励行し、個々の状態に応じて声掛けや介助等の支援を行い、口腔内の清潔を保てるように努めている。また、母体の病院に併設されている歯科にて定期検診や状態に応じた治療を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々に排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めている。また、個々の状態に応じてトイレの声掛けや介助を行い、適切な介護用品を使用して排泄の失敗による不快感が少なくなるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に応じて、乳製品等の摂取を勧めるなどできるだけ自然排便ができるように努めているが、状態によっては主治医に相談しながら下剤を使用し便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ個々の希望や体調に応じた入浴（またはシャワー浴や清拭）ができるように支援し、清潔を保持し気持ちよく過ごせるように心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその時の状態に応じて、休息したり安心して眠れるような対応や声掛けををするよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はすべて職員が管理しており、安全に正しく服用できるような体制を取っている。何か変化があれば管理者に報告して、主治医に相談する等迅速に対応している。また、利用者個々の疾病や処方内容は全職員が把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の現状を把握し、力量を考慮しながら日常生活の中で楽しみや役割を作り、喜びを感じていただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において家族との外出や行事等の企画は自粛しているが、感染対策を徹底したうえでデイケアを利用されたり、テラス等で畑や花壇を眺めたりと日常的に外の空気に触れる機会を作れるよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状では利用者が金銭管理を行うことは困難な状況である。金銭は家族と相談しながら家族やホームで管理しており、個々に希望があればいつでも買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば手紙を出したり、いつでも電話をかけられるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には季節ごとに装飾を施し、廊下の壁には行事の写真飾っている。また、季節に応じて冷暖房の使用や扇風機、加湿器等を使用してできるだけ快適に過ごせるよう努めている。また、感染症予防対策として空気清浄機が導入された他、日常的に換気を行う等している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、テレビ前のソファ・3台の食卓テーブル等、各自ゆっくりと過ごすことができる場所がある。また、食卓席は利用者個々の状態や利用者同士の関係性に配慮した配置となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は個々の状態に応じて家族と相談しながら安全に過ごせるよう工夫したり、使い慣れたものや好みのものを置いて安心できるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に生活できるように刃物や洗剤等の日用品の管理にも十分配慮し各居室やトイレ等には貼り紙をしてわかりやすいように明示している。		